

あなたと博物館

松本市

松本市立博物館ニュース No.148 2007.1.1

今年は市制施行100周年の記念すべき年。

奈川地区の
小正月の火祭り

歳の神が福を呼び込みます。



奈川地区古宿 2005. 1. 13

もくじ

誌上博物館◇明治三十七、八年戦役記念館開館前の様子 —『史料開智学校』の記述から(1)—	2、3
博物館のノートから◇東山山麓を歩く	4
博物館TOPICS◇第1回ワークショップ 「新しい博物館について語りませんか」を開催しました	4
ガイドコーナーはんてんぼく	4

奈川地区では、小正月の火祭りを「歳の神」といいます。地区により多少の違いはありますが、若い衆と厄年の人が中心になって大小二つの歳の神をつくります。

火祭りが最高潮に達すると、厄年の男女が歳の神に向かって年の数だけお金を投げる、いわゆる厄落としを行なう特徴ある行事です。子どもたちが拾ったお金はお守りになるといわれ、投げられた厄は拾われて、福に転じるということです。

誌上博物館 明治三十七、八年戦役記念館開館前の様子 ——『史料開智学校』の記述から—— (1)

はじめに

市立博物館開館100周年を記念し昨年開催した「博物館100年モノ語り」展は、皆さんの記憶に新しいと思います。ここでは、特別展で紹介できなかった、博物館前史—明治三十七、八年戦役記念館設立前の様子—を『史料開智学校』(1)の記述からおおづかみに紹介してみます。

1 戦利品をはじめとした様々な蒐集資料

『校長日誌』や『男子部(部長)日誌』に博物館の前身施設である時局室や記念館に関連する記述が具体的に登場するのは、明治38年度『校長日誌』からで、9.9「時局資料蒐集整頓委員 木村、新井、大久保、等々力、棚橋、川井、三溝、加科、鈴木ノ九氏」とあります。しかし、それ以前に町民等から様々な資料が寄附され始めていたことが、日誌の記述からわかります(以下、『校長日誌』からの引用を(校)、『男子部日誌』からの引用を(男)とします)(2)。



校長日誌と男子部日誌(旧開智学校蔵)

明治37年度

7.20 東京帝国大学理科大学人類学助手大野延太郎氏、山崎氏共ニ人類学ニ関スル標本類調ベノ為メ来校(校)とあります。果たして人類学関係の標本類とは何だったのでしょ

明治38年度

4.26 木村鎮来新井明八二君高四生徒十余名引率南安曇郡中萱村多田次男氏方へ兼テ同君ノ寄附ニ係ル鳥類標本十数種取寄セノ為メ出張(男)

6.3 三輪中尉コザック騎兵帽子及水筒ノ各壹個寄附ス(男)

6月26日からは「戦利品展覧会」(男)が開催されました。生徒の見学順序が決められ、27日は「戦利品縦覧ノ際軍人子弟ハ下足料ヲ納ムルニ及ハス」(男)、7月26日は「征露紀念トシテ本町出征軍人諸氏ノ写真蒐集保管ノ計画ノ処本日迄ニ組合受持ノ蒐集セシモノ百二十七枚ニ達ス」(校)と、当時の世相の一端がわかります。

ところで、蒐集した資料は戦利品、軍事資料だけではありません。先にも中萱村(現安曇野市)へ鳥類標本を受取りに教員が出かけていますが、10月5日にも「男高三木村新井引率明盛村へ多田次郎氏寄贈ノ鳥類ノ剥製ノ標本受取ニ旁遠足 紅雀外十四点受取ル」(校)とあり、当時から鳥類標本を収集していたことがわかります。

2 時局室の誕生

『明治三十七、八年戦役記念館一覧』(3)という小冊子には、この戦争には松本町から約400人が出征し、これらの大多数が小学校の卒業生で、兵事の余暇に大陸の珍しい草花、紙幣、敵兵の肩章などを入れた手紙



三村寿八郎像(市立開智小学校蔵)

を母校に寄せ、教員たちはこれを国民教育に資するために保存し、児童の見聞を広めようとした、とあります。当時の三村寿八郎校長は卒業生の行為に感激し、卒業生からの寄贈品1点ごとに説明を記して校舎の1室に陳列しました。9月9日には1で述べたとおり時局資料蒐集整頓委員9名が三村から任命され、努力の結果、10月23日の校長日誌に「陳列場ハ第一第二ト分レ時局資料及有志者ノ寄贈セル各種ノ標本ヲ陳列シ其壯観宛然展覧会ニ同ジ」とあります。この日に時局室が開室されたのでしょ

11月11日は「天長節拝賀式後來賓一同ニ看セシムル為メ書籍館へ戦時資料ヲ飾付ク委員一同夜九時迄執務ス」(男)とあり、職員が現在の私たちのように残業をして展示作業をしていたようです。100年前も同じですね(苦笑)。

その後、11.14 少尉上條樒二郎氏来校凱旋紀念トシテ陸軍戦時服装図寄贈(校)、1.20 陸軍歩兵少尉武居由太郎氏露兵使用ノ天幕及五円寄贈シ来ル(校)、3.15 児玉栄三郎(軍医)君来校時局室へ赤十字旗



河原操子が着用した服(市立博物館蔵)

及敵ノ軍刀速射砲彈ヲ寄贈ス(男)と戦利品の寄附が相次ぎます。

3月21日は河原操子(4)が来校し「歓迎会ヲ午前九時女子部ニ開会来会者五百余名」(校)とあり、彼女は蒙古の話しをしています。23日には「〔備考〕河原女史蒙古王様ノ揮毫セル習字、図画寄贈」(校)とあり、この時の資料は現在でも大切に保管されています。

3 時局室から記念館へ

さて、明治39年度を迎えての動きをみてみましょう。

4. 4 校長役場郡役所へ記念室設立ニツキ(校)、
6 校長郡役所及町役場へ時局室設置ノ件ニ付協議ノタメ出張(校)と三村校長はこの時局室を公に認可を受けるため町役場、東筑摩郡役所などに足繁く通い詰めています。12日は「本日ヨリ記念堂〔館〕建設ニツキ(略)卅七年時局資料保存室(中略)町会議事堂兼〔室〕務ノ記念室〔館〕(旧宮淵校舎改築移転)ヲ東体操場ノ所ニ建設シ体操場ヲ物置場ノ東ニ移転ノ件本年度町会ニ於テ可決ニ基キ改築費五百円体操場移転費百十円」〔欄外〕明治卅七八年戦役記念館建設地場(校)とあり、どうも記念館は旧宮淵学校の校舎を移転して設けられたふしがあります。14日は入学式後に「時局資料ヲ講堂ニ陳列シ縦覧セシム」とあり、見学者を受け入れています。

4. 22 町長来校記念室敷地ニ付検分(校)、27 戦時資料蒐集ニツキ報告注意 時局室改称記念館〈下線部朱線〉(卅七八年戦役)〔備考〕従来時局室ト称シ来リシガ既記ノ如ク改称ス(校)とあるように、この日から時局室を記念館と改称しています。5月2日は「午前九時ヨリ役場ニ学務委員会開会 記念館開館準備経費可決」(校)され、昔も今も予算がないと仕事ができないことがわかります(再び苦笑)。3日は「東

京市京橋区(略)造画館上麻人来校ニツキ海軍図、動物發育図(略)等ヲ注文ス」(校)とあり、記念館開館に備え東京の業者に海軍図等の製作を外注しています。現在でいう委託製作というところでしょうか。

4 有名軍人の来館

5. 14(5) 伊東元帥(略)午前十一時男子部ニ臨場ニツキ校長中学ニ迎へ(略)伊藤^(マツ)海軍元帥乃木陸軍大将会同ス(校)とあり、乃木希典ら当時の有名軍人が来館しています。16日は「職員一同ニテ戦利品室(教員室)博物室(理科室)及教室、図書室(唱歌)陳列ノ準備」(校)を行い、17日は「福島將軍来松(略)福島將軍着宿直ニ平素親ク携帯シ来リタル双眼鏡(略)時局室ニ寄贈セラル 職員有志記念館準備ニ奔走シ深夜ニ至ル」(校)とまたまた残業。当時、福島安正は郷土松本出身の大英雄ですから、職員も気力を出して深夜まで残業したのでしょう。18日は「午前八時福島將軍徒歩ニテ来校セラレ記念館ヲ參觀セラレ(略)本日記念館ノ入館者三千七百人」(校)とあるように、



福島安正寄附資料(市立博物館蔵)

福島安正ファンが多数殺到したようです。校長日記によると、19日は3,500人、20日は2,700人の入館者がありました。20日には「日露戦役ハ古今東西未曾有ノ大戦大勝利ニシテ今回当町ニ開会セル三日間ノ晴天及人出ハ恐ラクハ空前ナラン」(校)と、三村は町民がこぞって記念館に来館した様子を記しています。

註

- (1)『史料開智学校』第1巻(昭和63年)には明治19年度から41年度までの学校日誌や男子部日誌が採録されている。
- (2)寄附資料や寄附者は、学校日誌よりも『時局資料寄贈寄附人名簿』、『時局資料蒐集集録』(いずれも市立博物館蔵)に詳しい。
- (3)明治39年11月26日 松本書籍商組合発行
- (4)明治8年(1875)～昭和20年(1945) 松本藩士河原忠の娘。日露戦争中に内蒙古のカラチン王府に単身出向き教育顧問として2年間にわたり女子教育に尽くした。

(館長補佐 窪田雅之)

東山山麓を歩く

11月11日に開催が予定されていた考古博物館と馬場家住宅の共催講座「東山山麓を歩く」はあいにくの雨により残念ながら中止となってしまいました。

「東山山麓を歩く」は馬場家住宅から考古博物館までの道のりを歩いてめぐり、途中にある文化や自然を学ぶ、という内容の講座でした。東山山麓には古くは縄文時代から人々が生活し、その痕跡はいたるところで見ることができます。それらの遺跡や史跡・文化財を紹介し、少しでも多くの市民の方々に知ってもらい、何百年後、何千年後にまで伝えていこうことが、この講座の目的のひとつでもあります。

さて、この講座の下見の際に、埴原神社の程近くにあった双体道祖神について、たまたま通りかかったおじいちゃんから、こんなお話を伺いました。

『宮入川の護岸工事のとき、川底から出てきた石を割ろうとした。ほいだけん母ちゃんがどうしても割らねえでくりやって言ったもので、石の泥を流して調べてみたら見事な道祖神だった。だでこうしてお祀りしてるだ』(文は筆者)



なにげなくたずんでいる道祖神。その道祖神には少し不思議で暖かいエピソードがあったのです。

歴史と言えば「鳴くよ鶯平安京」、「いい国造ろう鎌倉幕府」なんて言葉が思い浮かぶ人も少なくないかもしれません。しかし家の近くにある祠や毎日通勤に使っている道、行きつけのお店の前に立っている石碑など身近なものにも歴史があります。そして、それらにはきつと素敵なエピソードが隠されているはずです。身近な土地の歴史を知れば、いつもの街、いつもの生活も少し楽しくなることでしょう。

博物館では、バス見学会や市民学芸員養成講座、各館で行われる各種講座等、松本市域の歴史や文化を学んでいただく講座を開催しています。身近な歴史にふれる一つの機会として、このような講座や博物館を利用していただけたらと思います。

(馬場家住宅 学芸担当 望月 優)

博物館 TOPICS

第1回ワークショップ

「新しい博物館について語りませんか」を開催しました

12月2日(土)午後1時30分から市民活動サポートセンターで、基幹博物館基本構想策定にかかわる第1回ワークショップを開催しました。

おかげ様で、30人以上の皆さんの参加があり、3グループに分かれて熱心に作業が行われました。最後に各グループから発表があり、皆さんの〈わたしの欲しい博物館〉の姿が明らかになりました。

第2回は2月中旬に開催する予定です。詳しくは後日お知らせします。皆様のご参加をお待ちしています。



あとがき

今年は松本市が誕生してから100周年の年にあたります。日々変貌してきた松本市に、博物館は対応できてきたのだろうか？新しい博物館にける期待を是非多くの市民に語っていただくとともに、私たちも100年先を見すえた博物館を考えていかなばと思うのです。(E.T)

ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

◆年中行事シリーズ「小正月—まゆ玉サービス—」

期 日 1/14(日) 午前9時30分～午後4時(※)
場 所 松本市観光情報センター(大名町)
内 容 来場者にまゆ玉を配布 ※なくなりしだい終了

考古博物館から ☎0263-86-4710

◆移動博物館「発掘された松本2006」

期 日 2/8(木)～2/22(木)
午前9時～午後5時(最終日は正午まで)
場 所 松本市時計博物館3階 企画展示室
観覧料 無料(時計博物館常設展は別途有料)

◆松本市遺跡発掘報告会

期 日 2/17(土) 午後1時30分～4時30分
場 所 本町ホール(時計博物館4階)
参加費 無料

時計博物館から ☎0263-36-0969

◆松本あめ市歴史展示「中信地方のあめ市」

期 日 1/6(土)～2/4(日)
場 所 松本市時計博物館3階 企画展示室
観覧料 無料(ただし常設展は有料)

◆記念講演会「松本のあめ市—歴史と伝説—」

期 日 1/27(土) 午後2時～4時
場 所 本町ホール(時計博物館4階)
参加費 無料
講 師 信州大学教授 笹本正治先生

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

◆企画展「旧制高校の受験」

期 日 1/27(土)～3/4(日) 午前9時～午後5時
場 所 1階ギャラリー 観覧料 無料

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

◆空穂伝統こども教室「百人一首の部」

期 日 1/13(土) 午前10時10分～正午
場 所 窪田空穂生家
対 象 小・中学生(無料)

◆冬季文化講座「冬日ざし」

期 日 1月～2月 計4回 午後1時30分～3時
場 所 窪田空穂生家 参加費 各100円
講 師 1/27(土) 上條宏之氏
「窪田空穂の自伝を読む」
2/3(土) 小松芳郎氏
「戦時下の和田への学童疎開」
2/10(土) 大月一夫氏
「出あい ふれあい 高めあい」
2/17(土) 白井和恵氏
「窪田空穂の身の上相談」

お知らせ

前月号でお知らせしたように、博物館は現在休館中です。休館中の事務所、電話等は下記のとおりです。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

あがたの森文化会館内 松本市立博物館
〒390-0812 松本市県3-1-1
☎0263-32-0133 Fax 0263-32-8974

あなたと博物館 No.148

発行年月日 平成19年1月1日
編集・発行 松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: http://www.city.matsumoto.nagano.jp
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp